

■第4回 専門部会の記録

日 時：令和3年11月18日（木）19時～20時25分

場 所：オンライン会議

出席者：榎井部会長、高谷副部会長、勝部委員、金子委員、神野委員、森委員、イラ委員、
ジャ委員、金委員、和田委員、吉川アドバイザー、比嘉アドバイザー

事務局：豊中市人権政策課 堀山人権政策課参事兼課長、片岡課長補佐、野邊
（公財）とよなか国際交流協会 山野上事務局長、山本事務局次長、山根事業主任

次 第：1 議題

- （1）アンケート調査結果について
- （2）ヒアリング調査について
- （3）報告書及び報告会について
- （4）その他

会議の経過

○開会

○配布資料の確認

【部会長】

- ・では、最初の案件について説明を。

○事務局よりアンケート調査結果について資料説明

【部会長】

- ・膨大な資料だが、説明のあった内容について意見や質問はあるだろうか。

【事務局】

- ・調査とは直接関係ないが、ワクチンに関して多くの意見が寄せられたが、タイミング的に豊中市ではワクチン接種対象となる外国人全員に多言語でお知らせを配布しセンターで接種会場としたが、予約がなかなか取れない時期やちゃんと認識されていない時期に重なったためではないかと思われる点を補足しておきたい。

【委員】

- ・市や国際交流センターが発信する情報の閲覧状況があるが、市のホームページと広報があるが、あまり見ない人を除外すると非常に閲覧状況としては少ないという印象を持った。

【事務局】

- ・国際交流センターとしても少なかったなというのが正直なところだ。
- ・この後のインタビューの紹介でも実際にどのように情報を得ていたのかなどを併せて見ることで、なんで届かなかったのか、なんで見ていなかったのかなどを分析し次に進められ

たらと思っている。

【部会長】

- ・この後のインタビューの報告も併せて意見をいただければと思う。

【委員】

- ・ホームページなどはそもそも豊中市民の日本人もどれくらい見ているのかという部分もある。
- ・ネパールやインド、ベトナムなどの人が経済的に厳しいという状況は、われわれの貸し付けの現場での肌感覚とも合致している。また、家族滞在の人の働ける場所や時間に限りがあるなかで、非正規にしわ寄せがきている。世帯主は働いているが、奥さんなどがパート等で支えていた部分などが切られていっている実態があり、家族滞在の人の生活も厳しくなっていることが実感できると思う。

【副部会長】

- ・今の意見と少し重なるが、集計結果にジェンダーの統計がないようなので可能なら入れていただきたい。数が少なくなるかもしれないが、日本全体でいえばコロナに関しては女性の方に影響があったことがいわれていると思うので、外国人の場合どうなのか気になるところだ。全部は難しいかもしれないが可能であればお願いしたい。
- ・国籍別になっているものと地理区分になっているものがあるが、どういう理由で国籍ごとや地域区分になっているのか。

【事務局】

- ・性別の分析については、全体を見て特徴的な部分があるようであれば追加したい。
- ・国籍と地域別については、先ほどのベトナムやネパール、フィリピンなど国籍で細かく見た方が特定のところだけが尖って特徴が出ている場合は国籍で細かく表記しているが、全般に地域ごとに同じような傾向できている部分については作図上の問題なども含めまとめて記載しているものだ。
- ・情報提供という点で、どちらかに統一するというのであれば事務局内で相談しながら対応することは可能だ。

【部会長】

- ・すべて国籍別にした方がよいという意見だろうか。

【副部会長】

- ・統一した方がいいかと思ったことと、東南アジア、南アジアとまとめられているが、ベトナムやネパールの方は同じような生活に困窮している傾向のようだったが、在留資格で見ればネパールは技能か家族滞在が多く、ベトナムの方は技能実習が多いといった、若干スタイルが違うのではないかと思うので、それなら全部国籍で分けた方がいいのではないかと感じた。

【部会長】

- ・ではほかに意見がなければ次の案件へ。

○事務局よりヒアリング調査について資料説明

【部会長】

- ・まだまとめている最中ということだが、アンケート調査を立体的に見ていくためにはこのヒアリング調査は重要だと思う。
- ・何か意見などあるだろうか。コミュニティの人もいるので、ぜひ自分たちのコミュニティのことなども含めてうかがいたい。

【委員】

- ・アンケートもありこれだけの資料は貴重なものになっていると思う。アンケートの回収率も予想より高く自由記述もたくさん回答しているようで、今回の調査はこれから評価するのだと思うが非常に大きな成果だと思う。外国人は自分たちのことについて日本の社会に話がしたかった、それを聞いてあげられたのが今回の調査ではないかと思う。
- ・われわれの組織の方にも来ていただきインタビューを受けた人もおり、われわれコミュニティについても知ってもらえたので大変ありがたく感じている。われわれのコミュニティの特徴としては、高齢化が進んでおり、在住資格は特別永住者、戦前から日本に住んでおり戦後も引き続き暮らしており大分高齢化している。多くの人は戦前から住んでいる親の子どもとして引き続き日本にいるものだ。また、戦後に来た人も結婚等の理由で日本に住み永住権を持っていることがほとんどで、日本語については不自由なく暮らしているため今回の調査はコロナで困っている外国人という趣旨からは少し外れたところもあるかと思うが、数十年後、今回調査している外国人が将来どのようなことで日本のなかで過ごしていくのかについて、われわれの状況がひとつのヒントにもなればと思うので、今回の調査をしていただきありがたく思っている。

【委員】

- ・われわれのコミュニティもインドネシア人として大変ありがたい調査だと思う。ただ、インタビューされたい人をグループ内で探したがなかなか手が上がらず、センターにどんな立場の人が必要かなど問い合わせたりもした。国際結婚した人や留学生がいるが、留学生からは誰からも手が上がらず、日本人と結婚し子育て中の人は2人ほどいるが、なかなかインタビューは難しいと感じた。

【部会長】

- ・委員のみなさんの協力もあってこそこの調査だと感じている、ありがとうございました。

【委員】

- ・インタビューそのものには直接対応できていないが、幾人かインタビューしたらいいなと思う人が頭に浮かんでいる。
- ・コロナの影響で去年から子どものいる世帯に宅食を実施しており、80世帯ほど食材を持っていったりしている。そのうちの2割ほどが外国にルーツのある人たちとなっている。そういう人たちの生活の課題がいろいろ見えてきているなかで、友達がいないというのは本当にそうなんだなと分かってきた。ちょっとしたことが聞けないとか、われわれの訪問の際にわざわざ聞くほどではなかったことについてついでに聞くといった感じで、日常のつながりができることで困った際にSOSの連絡が入るようになってきたと感じている。
- ・電気製品が壊れたけど臨時支出があると生活できなくなり、夏場に熱中症になりかけて暮らしていたり、冬になると今度は暖房器具がないので電気カーペットをリユースして届け

たりなど、日常的にわれわれがたかだか数名でやってるだけでもそれだけ見えてくるので、相当の課題があるのだらうと思う。この間失業し家を失った人がおり、子どもがいるのに3日後に家を出なければならないという状況だが、不動産屋も保証人がいないためなかなか家は見つけれなかったが、なんとかこれまでのつながりのなかで協力してもらい家を探したりもした。

- ・ そういう親子を地域の農園に招待し一緒に芋掘りをする体験をしたり、バザーやサッカー交流などもできた。こうした日常の生活に近い交流をすることで生活を知れる部分がすごく多いと感じており、若者でなかなか社会参加しにくくひきこもりがちだった子のなかにはサッカーをやる子が結構いたため、そういう交流をつくり、コミュニティとしてそこに地元の人も参加するような、そういうきっかけをひとつでも増やしていければと計画している。友達をつくる、困ったときに相談にいける関係を身近なところで作ることが、地道に毎日関わることでできたと思うので、そういう関わりをどう広げていけるのか今実験している状況だ。
- ・ ベトナムの実習生は残業が減ったり、逆に今は緊急事態が解除され一気に仕事が始まったり、自国には感染拡大で帰れなくなっていたりと苦しい思いをしている人もいる。もしまだインタビューで子どもの相談などで話をする人が必要であれば、日常的に関わっているのでインタビューの協力も得られると思うので連絡していただければと思う。

【部会長】

- ・ 豊中の社会福祉協議会はちょうどコロナがはじまった頃から多文化共生の取り組みも進めてきたというのはすごく大きいと思う。ぜひそうした取り組みそのものも報告書のなかで紹介いただきたいと思う。
- ・ 宅食の話なども非常に興味のある部分だと思うので、知りたいと思っている人も多いだろう。ぜひそのあたりも今後連携を考えていく際に重要な視点だと思う。
- ・ まさにコロナと同じタイミングで貧困の問題と外国人の問題に取り組んでいたのは大きなことだ。

【アドバイザー】

- ・ 夜間学級の生徒に5人ほどインタビューを行った。エジプト1人、ネパール4人で、エジプトの人は会社を経営、ネパールの方はインド料理屋で働いており家族滞在といった形だ。
- ・ いろいろな人がおり、国際交流協会のことは以前から知っていて今回のコロナのことでもとても助かったという人や、今回のコロナではじめてつながってサポートを受けられ助かったという人もいる。インタビューするまで国際交流協会のことを知らなかった人もおり、インタビューを通じていろいろと国際交流協会のことを紹介するなど、インタビューを通じてつながった人もいる。実際コロナにかかった人もおり、夫婦でコロナに感染し、当時はまだ国際交流協会につながっておらず言葉もわからず本当に困っていたようだ。
- ・ 地域のネパール人のネットワークがあり、あそこの人が困っているらしいぞと、そこから国際交流協会につながっていくケースが一般的なようだ。アンケートでも国際交流協会や市役所からの情報があまり伝わっていないようだったが、地域のネットワークのなかで困っている人とつながることで、そこからいろいろな機関につながるというのもひとつのルートなのだと改めて理解できた。

【部会長】

- ・ほかに意見がなければ次の案件へ。

○事務局より報告書及び報告会について資料説明

【部会長】

- ・ヒアリング調査のもう少し細かい部分についてはいつごろ知ることができるのか。

【事務局】

- ・部会終了後の打ち合わせでそのあたりのスケジューリングを行いたいと考えている。

【部会長】

- ・では説明のあった報告書の作成についてやアンケート調査結果等についての意見についてはこれから受け付けるとのことだ。
- ・また、部会員にも執筆をお願いしたいということで、提出期限は12月20日とそんなに余裕はないが、また、その後の2月ごろに報告会ということなのでご協力をお願いしたい。
- ・ではこれらに関して何か意見や質問はあるだろうか。

【アドバイザー】

- ・報告書に執筆とのことだが、文体の指示等はあるのか。

【事務局】

- ・自由に書いていただければ、言葉の整理等は事務局の方で行わせていただく。

【部会長】

- ・他には何かあるだろうか。全体を通してでも何かあればどうぞ。

【委員】

- ・部会員の執筆というのは全員なのか。

【事務局】

- ・全員で考えている。

【委員】

- ・インタビュー内容等報告内容が出る前に書くことになるのか。

【事務局】

- ・そうなる。アンケート結果報告書とヒアリング調査や普段の活動やこの部会への参加についてなどの感想、普段の活動のなかで多文化共生施策として必要だと感じていることなどにふれていただければと思う。

【委員】

- ・ヒアリング調査もいづらかやらせていただいたが、本当に難しいものを持っている人は話をしていただけなのかなと思う。やはりわれわれはつながっている範囲で話を聞かせてもらおうと、そんなに深刻ではない人がいいよと手をあげてくれる感じで、本当に困っている人はなかなか手が届かない場所にいるのではないかなと思う。
- ・先ほど社会福祉協議会での活動の話があったが、社会福祉協議会の人はずごくなくに入り込んでいるので、せっかくこの場で一緒になったので連携を取りながらいろいろつながっていければと思う。

- ・アンケート調査については、まだこういう部分が足りない等あれば協力できると思うので連絡をいただければと思う。

【部会長】

- ・調査の内容だけでなく、この調査を受けどういう風にわれわれがつながっていくべきかなど、いろいろな立場から意見をいただければと思う。

【委員】

- ・外国人だから目立たないようにとか、逆にコミュニケーションを取らない方がストレスがかからないなど、役所の身としては悔しい思いを受けた。これまでの話からも何かしらつながっていかねばならないと思うが、つなげていくわれわれの方もつながっていく必要があると感じた。いろいろな支援がいろいろな所にあると思うので、われわれがつながっていくことで、こうしたアンケートの結果もよりよくしていけるのではないかと思う。

【部会長】

- ・ほかに意見がなければ、執筆依頼ということでぜひご協力いただきたい。
- ・ではその他あれば事務局より案内を。

○事務局よりその他について案内

【部会長】

- ・今日はこれからわれわれが形にしていけるものがたくさん出てきたと思うので、力を合わせ形にし、それを発信することで、豊中の地域が少しでも共生の社会を推進していくことにつながればと感じた。あともう少しだが、引き続きご協力をお願いしたい。
- ・では本日は以上としたい。

(以上)